

(学級活動)

「一人一人が輝く学級集団づくり」

—話し合い活動を通してよりよい人間関係を築く子どもの育成—

大阪市立日吉小学校 桑田 晴奈

1. 研究主題設定の理由

学級活動は、子どもたち自らの課題を見出し、意見を出し合い、合意形成をする活動であり、仲間との協働が欠かせない。また、こうした過程を通して、仲間を意識しながらよりよい人間関係を築くことができる。さらに学級の集団づくりでは、児童一人一人のよさや可能性を生かすと同時に、他者の失敗や短所に寛容で共感的な学級の雰囲気をつくることができると考えた。

2. 研究の趣旨

日吉小学校では、各クラスで決めた学級目標を達成するために、今自分たちに必要なことを考え、互いの意見を出し合い、よりよい考えを見つけるために合意形成を図っていく。その活動を通して、自分たちで学級目標に近づくクラスを作り上げようとしていくことが、よりよい人間関係を築く子どもの育成につながると考え、研究を進めてきた。

3. 研究の概要

(1) 学級活動を進めるための環境づくり

① 議題ポスの設置

いつでも、子どもたちが、学級目標を達成するためにやりたいことを意見できるように議題ポスを設置した。

② 学級会ノートの工夫

学級会ノートを工夫し、子どもたちが、議題、めあて、話し合うことを理解し、自分の考えを書けるように工夫した。担任が事前に子どもたちの考えを知り、賞賛することで、子どもたちは自信をもって話し合いに参加できた。また、みんなの考えをもとに、計画委員会で話し合いの見通しを持つことができた。

③ 計画委員会の設置

話し合い活動を行う前に計画委員会で、どんな意見が多いか、どんな意見に決まりそうか、見通しをたてた。

(2) 実践事例

① 朝の会・帰りの会について

登校が難しい児童がいたため、学級目標に「楽しく登校」という言葉が入っていた。子どもたちはこの目標を達成するために話し合い、自分たちで楽しくなる朝の会・帰りの会を考えた。毎日取り組むことで、クラスも盛り上がり、楽しい朝の会、帰りの会を過ごせるようになった。

② 係活動について

○パワーアップ大作戦

学期の途中にクラス全員でそれぞれの係の課題について話し合った。どのような工夫をすれば、学級目標を達成できるかを考え、取り組んだ。みんなで考え、工夫したことで、係

からのお知らせも増え、意欲的に係の考えたイベントに参加する児童が増えた。

○活動内容から考えた係

今学級目標を達成するために、どんな活動をする必要があるかを話し合い、係を決めた。活動内容が明確なため、すぐに実践することができた。学級目標を達成するという思いをもって取り組んだため、活動が活発になった。

③ 集会について

○相手のある集会

年長さんに日吉小学校のことを知ってもらい、日吉小学校の1年生と仲良くなれるような集会を考えた。みんなで話し合って決めたことを、子どもたちは主体的に取り組み、準備、当日の司会進行をやり遂げ、自らの自信につながった。

○仲が深まる集会

クラスみんなが今よりもっと仲良くなるための集会を考えた。どうすれば互いのことを知ることができるのか、話し合った。今まで知っているゲームのルールを工夫することで、互いのことを知り、仲良くなれた。話し合いのめあてを明確にするために、学級会ノートでは思考ツールのクラゲチャート、話し合いではベン図を用いた。

○行事をさらに盛り上げるための集会

自然体験前に、自然体験でもっともっと仲良くなるために、事前に互いのことを知ることができ、関われる活動をしようと話し合った。ルールを工夫し、知って、関われる活動を考えることができた。話し合い活動では、視覚的に理解できるように思考ツールのし字チャートを使い、話し合いを深めた。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

・主体的に活動

子どもたちは自分たちで決めたことを実践しようと主体的に活動するようになった。学級目標達成のために、取り組むことができた。

・話し合いで決定

何事も話し合いで解決しようとするようになった。互いの意見を聞き、どのように思っているのか、話し合って決めるようになった。

・学校全体での取り組み

どの学年も学級活動に取り組んだことで、たてわり班活動、児童会活動、委員会活動でも話し合いが進み、互いの意見を大切に決めることができるようになった。

(2) 今後の課題

・時間の使い方

年間35時間の時数の中で、話し合い、計画し、実践していくことが大変だったため、学級会ノートを隙間の時間に書き、計画委員会も時間を見つけて取り組んだ。

・みんなの課題

最初は議題ポストに入った一人の意見が、計画委員会や担任の声かけにより、クラスみんなの課題として取り組むことが大切であった。